

8月8日,9日の二日間、東京研修でとても貴重な経験を得ることができたと思う。

初日に行われたディレクトフォースでは、近藤様をはじめ、4名の方々よりそれぞれ大変貴重なお話をいただくことができた。最初に行われた近藤様の講話では、目の前のことに一生懸命に取り組むことの重要性を再認識させられた。失敗やうまくいかないことがあったとき「手と足と頭を我武者羅に動かす」ということが大切であることを強く感じた。また、新しいことをやる、というときにはいきなりやるのではなく、少しずつ、少しずつやっていくことも大事なのだとわかった。それによって自信をつけ、流れを作り、流れができたならそれに乗っていくという近藤様の話は、とても心に残った。私自身が何か新しいことに挑戦するときにも心掛けていくべきであると感じた。

近藤様のお話が終わると、班ごとでのディスカッションに移った。一人目の青木様とのディスカッションでは、これから社会に、世界に飛び出て行く私たち高校生に必要なことを学ばせていただいた。青木様の「世の中に出ることは航海をするのと同じ。高校時代は、航海の準備期間みたいなものだ」というお話はとても印象に残っている。また、「whyを考える」というお話もとても心に残っている。そういうものなんだ、で終わらせずに、なぜそうなのかを考えることの重要性を学ぶことができた。青木様から学んだ多くのことをしっかりと頭の片隅においてこれからの生活を送らなくてはならないと感じた。

二人目の樋口様のお話も大変興味深いものであった。もともとは弁護士になりたかったそうだが、弁護士では、既存の法律を扱うことしかできない。既存の法律を扱うだけでなく、自分の手で法律を作りたい。といったお話を聞いて、既存の枠にとらわれるのではなく、新たなものを生み出していく、という考え方がとても素晴らしいと感じた。また、大学時代に作成した論文で国際海洋法が動くという結論を得て、その道に進んでいった、というその進路の決め方は、とても驚いたと同時に尊敬した。

最後の水口様のお話もとても勉強になった。お金を稼がなくてもいいから直接人を助けたいという考え方はとても素晴らしいものだと思う。私も水口様のような考え方ができる大人になりたいと強く思った。また、海外で仕事をしていく上で大切なことを教えていただいた。海外で仕事をする上では、自分と相手との違いをしっかりと認識することが重要だということだ。そのためにはまず、自分の意見をしっかりと説明できるようにすること必要だそう。また、なかなか伝わらなくてもめげないことが大事だともおっしゃっていた。伝わらないからすぐ諦めるのではなく、伝えるまで努力するということが大事なのだと感じた。しかし、それでも伝わらないときはあるという。そういうときは潔く諦めることも必要だそう。ディレクトフォースでは、本当に多くのことを学ぶことができた。このような機会を与えてくださった講師の方々や先生方に心から感謝している。

ディレクトフォースの後には企業訪問としてコナミデジタルエンタテインメントを訪ね

た。コナミデジタルエンタテインメントの担当の方のお話で印象に残っているものは多くあるのだが、いくつか取り上げてまとめたいと思う。

一つ目は、「ゲームはどんな力を持っていると思いますか」という質問に対する答えだ。担当の方は、「ゲームは人に活力を与える。なくてもいいのにあって欲しいと思うのは、それだけゲームがエネルギーになっているからだと思う。小説や映画などからものごとを学ぶことがあるように、ゲームからも学ぶことがあると思う。」とのことだった。近年、ゲームはすさまじい進化を遂げる一方、大人、特に小中学生あるいは高校生の子どもがいる親からは敬遠されがちである。

しかし、ゲームを作ること、これもまた立派な仕事であり、ゲームが人と人をつなぐきっかけになったり、人に勇気を与えたりすることがある、ということ忘れてはならないのだとこの話を聞いてつよく感じた。

二つ目はワーク・ライフ・バランスについてのお話だ。「退社したら、しっかりとプライベートの時間が待っている。そのプライベートの時間を充実させられるか、どう過ごすかは個人の問題。」という風なお話をいただいた。最近、残業や、過労が問題となることが多いが、コナミデジタルエンタテインメントさんでは、しっかりと退社時刻には退社できているという。その後はやはり個人の問題なのだと聞いて、会社の問題ばかりというわけでもないのだと感じた。また、自分にとって最高のリズムを見つけることが大事というお話もいただいた。これは、見つけるまでにかなり時間がかかるそうだが、ガンンしてしっかり見つけてほしいとのことだった。社会人になると、健康であることもとても重要であり、健康であることは仕事の一部だという。学生時代のように少し具合が悪いから休む、というのが社会では通用しない。学生から社会人になると、人生の中で生活リズムが最も変化するという。その中で自分に最適な生活リズムを見つけ、健康に過ごせるようにしなければならない。今は少しだらしない生活リズムでもなんとかなっているが、大人になると通用しないのだということを入れて、これからの生活に臨まなければならないのだということ強く感じた。忙しい中、貴重な時間を割いてくださったことに心から感謝している。

ホテルに戻って夕食を食べ終わると、二高のOB,OGの先輩方との座談会があった。二高から東大に行った先輩方の話はどれも貴重なものだった。やはり、東大に合格している先輩方は、高校時代から高校時代に毎日コツコツ勉強していたという。今現在の私は、普段の勉強時間はほとんどない。そこが、合格する人と不合格の人との差でもあると思う。上を目指す人は早い段階で気持ちを切り替えて勉強にも毎日しっかりと取り組む必要があることを改めて実感した。また、浪人した先輩の話も大変興味深いもので、やはり浪人すると、浪人した自分に対する嫌悪感みたいなものはどうしてもでてくるようだ。親に迷惑をかけてしまうことなども考えるとなるべく早いうちから勉強をした方がよいということだった。また、大学生活に関しては、どの先輩も非常に充実しているようで、東大は非常に

多くのサークルがあり、どの先輩からも「サークル活動は参加しなきゃ損」といった話を聞いた。東大に入るかはわからないが、大学でのサークル活動がとても楽しみになった。

2日目は、東大見学会ということで、東京大学の様々な場所を見て回った。中でも印象に残っているのは、やはり図書館である。現在大きい方の図書館は工事中で、見ることはできなかったのだが、小さい方の図書館でさえもかなりの蔵書数があり、小さい方がこれなら、大きい方はどれだけのものなのだろうかととてもワクワクした。いつか、見られる日が来るといいなと思う。また、二つ研究室を見せていただいたのだが、どちらの研究室も、私が将来やりたいと思って居るものとはほとんど無関係であるにも関わらず、思わずこの道もいいかな、と思ってしまうほど素晴らしい研究だった。自分の将来の選択肢が広がった気がした。また、東大生のお話をいくつか聞いていると、やはりサークル活動はとても楽しいそうだ。3年後が楽しみでならない。

この東京研修は、今まで私になかった新しい視点をもたらしてくれた。このような機会くださった先生方はじめ多くの人に心から感謝している。